

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果				
						4	3	2	1	?
一 確かな学力の定着・向上	①確かな学力の定着向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようとする。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	B	◇ 各学担当が授業の工夫を講じているものの、各教科の単元テストでの平均正答率80%以上を達成できたのは60%と中間期よりも低下している。その結果を受けて、教職員や児童の肯定率も下がっているものと考えられる。学習内容が徐々に難しくなるため、前学期や前学年での積み残しがあると、取り戻せない部分もあるのではないかと考える。	教職員アンケート3-①②	36%	50%	14%	0%	0%
				◆ 少人数学級のよさを生かし、児童の実態に応じたきめ細かな指導を継続して行う。また、既習内容が確実に身に付くように復習の場をより多く設定し、積み残しがない状態で次学年につなげたい。	児童アンケート⑤⑥⑦	73%	25%	2%	0%	0%
		保護者アンケート⑩	63%	37%	0%	0%	0%			
	②基本的な学習習慣を確立する。	児童の表現力向上をめざし、各教科等で言語活動の充実に取り組んでいる。 ※各単元の中で考えを書く活動と話し合い活動を1回以上実施	A	◇ 各学担当が意識して表現や発表する場を積極的に設定している。また、全校話し合いやファミリー班活動、句会等を通して、自分の考えを表現したり、友達の話聞いて自分の考えを再構築したりすることができた。一人学級のため、なかなか話し合い活動を行えない学級もある。	教職員アンケート3-⑦	29%	57%	14%	0%	0%
				◆ 今後も、各教科で多様な表現と発表の場を設定し、経験を積ませ、表現力の向上を図る。表現するための語彙力向上も意識し、様々な表現に触れる機会を増やしたい。引き続き、他校とのオンライン交流等を取り入れながら、同学年で対話する機会を増やしていきたい。						
		ICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を高めたり、成績処理を効率よく行ったりしている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	A	◇ ICT機器を活用して具体的な資料や活動の流れを示すことで、児童の思考がスムーズになる場面が多かった。教職員においては、よりレベルの高い活用のために試行錯誤を重ねているため、低い評価もあると考える。	教職員アンケート3-③	14%	71%	14%	0%	0%
③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	宿題を含む家庭学習を、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	A	◇ 中間期に続き、家庭学習の習慣は概ね身に付いていると考えられる。2学期は宿題の直し等を確実にを行い、意欲的に学習に向かうことができていた。忘れ物も毎日チェック表に記入することで、自分を振り返ることができ、確実に準備しようとする意識は芽生えている。	児童アンケート⑧	82%	18%	0%	0%	0%	
			◆ それぞれの学年に応じたICT機器のより良い活用を考え、使用するアプリ等の選択をすることが大切であると考える。児童が安心して学習に取り組めるよう、より良い活用についての情報共有を充実させ、実践していきたい。	教職員アンケート3-⑤	43%	57%	0%	0%	0%	
	保護者アンケート③④	0%	86%	0%	4%	0%				
学校運営協議会所見	・個に応じた基礎的・基本的な学力の定着の仕方をこれからも考えてほしい。 ・家庭学習の習慣化に関しては、保護者の協力が必要である。子どもと一緒に学習に取り組む時間を確保してほしい。 ・極小規模校の特色を生かして、一人ひとりの学力を見極め、可能であれば前学年の積み残しまで補習してほしい。自己肯定感や自尊感情の向上にもつながるので、確実な学力の定着を図ってほしい。また、勉強好きな子どもを育ててほしい。 ・真摯に自分の指導に向き合っている表れだと思うが、教職員の評価が厳しい。成長している児童の姿を感じられるのも、もっと自信を持って指導してほしい。	学校の対応	・児童一人ひとりに、よりきめ細やかな指導をしていく。基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を目指し、どの児童も「分かった」「できた」と言える授業改善に努める。 ・何のために、どのように自主学習をしていくかを理解させることができるように、「自主学習の手引き」などの作成をしていく。また、手本となる自主学習ノートを掲示して、学習の進め方のヒントにする。 ・ICT機器(クロムブック)を活用した宿題や小テスト、ドリル問題を作成し、児童の学習意欲が高まる取組を進めていく。							
二 豊かな心の育成	④地域を活用した体験活動を充実する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ どの項目においても肯定的な回答となった。地域コーディネーターや外部講師の方々に来校いただき、児童と接する機会を昨年度よりも多くつくることができたからではないかと考える。また、今年度はトライアスロン大会や各種地域行事などが通常開催となったため、地域の行事を体感することができ、地域について学ぶことができたのではないかと考える。	教職員アンケート 3-⑪ 6-④⑪-⑤	48%	48%	4%	0%	0%
				◆ 今後も外部の方々に協力していただきながら、ふるさとについて児童がより深く考えられるように、場の設定や工夫をしていきたい。学校からも出向いていく姿勢を忘れることなく、常に地域の方々とのつながりを大切に、地域とともに成長する学校にしていきたい。	保護者アンケート⑪⑫	57%	43%	0%	0%	0%
		地域アンケート④⑤⑧	72%	28%	0%	0%	0%			
	⑤『つながり』『挑戦』し、笑顔あふれる学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、心を合わせて頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格のために、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習や宿題の提出を行う。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇ 校内漢字・算数検定合格に向けて、児童に自主学習をするよう促したり、検定に関する小テストを行ったりするなど、各学級で指導の工夫をすることができた。しかし、中間期と比べて、肯定的でない意見が増えたのは、基礎的・基本的な内容の確実な定着が十分でない児童がいるからではないかと考える。	教職員アンケート3-②⑤	34%	62%	4%	0%	0%
				◆ 引き続き、児童の基礎学力の定着に向けて努力していきたい。自主学習ノートについての指導を丁寧に行い、学習に意欲的に取り組む児童の育成に努めたい。また、ICT機器を効果的に活用することで、学習することの楽しさをより感じさせ、学習に取り組む姿勢や態度が前向きになるようにしていきたい。	児童アンケート⑥	82%	18%	0%	0%	0%
		保護者アンケート⑩	63%	37%	0%	0%	0%			
学校運営協議会所見	児童・教職員が互いに感謝の言葉を発するように徹底する。 「ありがとうの木」活動の充実を図る。 ※児童・教職員の100%が肯定	A	◇ どの項目でも、肯定的な意見となった。上学年の児童が下学年の児童に対して優しく接したり、友達同士で教え合ったり話し合ったりして、新しい考えに気付く児童の姿が見られる。しかし、他人のために積極的に動いたりボランティア精神を高めたりすることは、十分とは言えなかった。	教職員アンケート1-③⑤	79%	21%	0%	0%	0%	
			◆ 児童が「してもらって当たり前」と間違った考え方をなくし、様々な場面で支えてもらっていることに気づき、感謝の気持ちを持てるようにしたい。その気持ちを行動に移すことができる児童の育成に努める必要がある。	児童アンケート④	37%	63%	0%	0%	0%	
	・生徒指導の徹底と健全育成はできていると思うのだが、教職員の評価が低い。校内研修などで教職員間の共通理解を図り、さらなる充実を期待する。 ・今後も「学校に行くことが楽しい」と言える児童を育ててほしい。 ・地域の中では、たまに挨拶をする程度であるが明るく元気に声を掛けてくれる。お礼もきちんと伝えて、言葉遣いも丁寧である。 ・他校との交流活動でコミュニケーション能力をより育ててほしい。	学校の対応	・自己肯定感の低い児童が固定化されつつある現状を鑑み、教職員は、児童一人ひとりの個性を認める対応を強めたり、誰もが活躍できる場面を多く設定したりしながら自尊感情を高められるように努める。 ・保護者や児童との信頼関係が希薄にならないように、連絡・調整をより強めていく。 ・家庭・地域・学校が連携・協働できるように、より開かれた学校づくりに努め、地域社会総がかりの教育を進めていく。 ・コロナ禍前の通りとまではいかないが、授業公開や学校行事への参加が積極的にできるように設定していく。							

三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上、朝運動を週2回実施	A	◇ 体力を高めたり体幹を鍛えたりする運動を、授業導入時の補助運動として継続して行っている。朝の活動では、持久走や行事の時期に合わせて相撲の練習を行った。福浦小学校との合同マラソン大会や薬師如来奉納相撲大会に向け、児童は意欲的に練習に取り組んでいた。 ◆ 体力テストのシャトルランや県内の小学生と記録を競い合える「8の字ジャンプ」での頑張りが、児童の運動に対する自信につながっている。真剣に取り組む中で楽しさをさらに感じさせられるよう、活動の工夫をしていきたい。	不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低 70% 中 70% 高 70%					
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりして、全校児童出席日を増やす。 ※年間全校児童出席日が150日以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定的な評価だった。継続した保健指導・安全指導で概ね基本的な生活習慣の確立・定着は図れてきていると思われる。しかし、長期休業や週末には生活が乱れる児童がおり、継続した指導の重要性を感じる。 年間の全校児童出席日数は、目標を達成できない数値となった。 ◆ 生涯を通して望ましい生活習慣ができるように児童の意識を高めるため、引き続き保健便りや掲示板、集会等の機会を利用し、より望ましい生活習慣が定着するように指導をしていきたい。体調不良等で欠席した児童の対応については、保護者との連絡・連携を大切に、休み明けに児童が安心して登校できる雰囲気づくりを継続して行いたい。また、必要な児童には、全教職員で共通理解を図りながら適切に個別指導を行ってきたい。	教職員アンケート1-②7-①②③④	46%	64%	0%	0%		
	学校運営協議会所見	・朝の活動でも熱心に取り組んでいる。児童の体力向上への取組が意欲的に継続できるよう工夫してほしい。 ・児童一人ひとりが今しかできないことに向き合い、可能性を自覚できる指導を望む。 ・家庭と学校との連携は、児童にとって大切な一助になると思う。 ・他校と競い合っている姿は一生懸命で感動した。児童はよく頑張っている。 ・今後も不登校児童が出ないように、指導の工夫をお願いしたい。	学校の対応	・新体力テストの結果を参考にして、朝運動の内容を精選したり、体育科の授業における補助運動の内容を工夫したりして日常的に運動や体力づくりを行っていく。 ・陸上大会や音楽発表会、相撲大会などに向けての過程を経て、児童全員が達成感や達成感を感じられる活動内容・指導をしていく。 ・継続して、HPの更新や各種通信や便りを発行し、より多くの方々に本校の取組を知っていただく。	児童アンケート③⑩	46%	50%	4%	0%	0%	
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意をもって対応するよう努めている。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたので、各種行事の参加者を制限することなく実施することができた。その結果、教職員・保護者・地域のすべてで100%の肯定率を得ることができた。ホームページや学校だよりをはじめとする各種たよりや地域の回覧板等で、学校の行事や取組を周知しているためと考えられる。 ◆ 一部の地域住民からは、「行きたくても行く手段がない」「学校に行くのが辛い」という声を聞くことがある。本校は、高台に設置しているため、高齢者にとって参加したくてもできないという思いがあるのではないかと考える。従って、行事や取組の内容によっては、地域の中に出向いて行ったり公開したりすることも必要なのではないかと思う。	教職員アンケート11-①③	72%	28%	0%	0%		
	学校運営協議会所見	・学校の取組は、多くの場を通して啓発されているように思う。学校だよりやHP、ケーブルテレビ等で児童の活躍や学校の様子がよく分かる。 ・HPが充実しており、日々の活動が分かりやすい。楽しく閲覧できている。 ・学習発表会は、大変だと思うが階段や上り坂のない船越集会所での開催を望む。 ・保護者と地域住民の意見を積極的に反映した学校運営に期待する。	学校の対応	・ホームページや学校だより、各種通信の内容をより充実させていくとともに、学校運営協議会の活動内容も組み込んでいく。 ・保護者や地域の方々の思いや願い(ニーズ)を把握するように努め、それらに応えられる情報を発信していく。 ・学校行事や様々な活動を公民館や集会所で開催できるように、企画・運営していく。	保護者アンケート ⑩⑭⑰⑱	66%	34%	0%	0%	0%	
	学校運営協議会所見	・学校の取組は、多くの場を通して啓発されているように思う。学校だよりやHP、ケーブルテレビ等で児童の活躍や学校の様子がよく分かる。 ・HPが充実しており、日々の活動が分かりやすい。楽しく閲覧できている。 ・学習発表会は、大変だと思うが階段や上り坂のない船越集会所での開催を望む。 ・保護者と地域住民の意見を積極的に反映した学校運営に期待する。	学校の対応	・ホームページや学校だより、各種通信の内容をより充実させていくとともに、学校運営協議会の活動内容も組み込んでいく。 ・保護者や地域の方々の思いや願い(ニーズ)を把握するように努め、それらに応えられる情報を発信していく。 ・学校行事や様々な活動を公民館や集会所で開催できるように、企画・運営していく。	地域アンケート③④⑤⑧	70%	30%	0%	0%	0%	
五 教職員の向上・指導	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇ 2学期は校内の研究授業や校外での研修に参加する機会が多く、それぞれが指導力向上に向けて、研修をすることができた。また、基礎・基本の定着や多様な表現活動を取り入れた学習の工夫をするために、教員同士で情報共有を積極的に行い、授業の改善に努めた。 ◆ 引き続き、研修についてのアンケートを実施し、分析・考察して授業の改善を図りたい。「深い学び」についての研究を始めて1年となる。今年度の研究の成果と課題をまとめ、来年度へとつなげていきたい。	教職員アンケート10-①②③④	33%	67%	0%	0%		
	学校運営協議会所見	・指導力向上のための研修に取り組んでいることが分かる。教職員の良さを出し合い、互いに高め合っている。 ・これからも、教職員の方々の方向性が一つになり、深い学びの充実へと発展していくことを期待している。 ・ICT関連のスキルアップはこれからますます必要になるだろう。 ・踏襲性から脱却し、ホトムアップを大切にして児童の育成に努めてほしい。	学校の対応	・人事のバランスのよさを生かし、互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気づき、答えを見付けていく方法などを活用し、風通しの良い職場づくりに努めていく。 ・ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。 ・実践研究主題に迫る授業研究を重ね、教職員一人ひとりの資質・技能の向上に努める。							
	学校運営協議会所見	・能登半島地震を教訓にして、防災・減災に備えた環境整備をしていく必要がある。地区内にも危険な里道が複数ある。 ・他人の命より、まずは、自分の命を守ることを優先する指導も必要なのではないか。 ・地域の消防団とも連携した避難訓練を実施してみてもどうか。 ・児童への防災・減災教育は必須だと考えられるので、アンケートの肯定率がさらに向上することを期待する。	学校の対応	・大地震が発生するとライフラインが寸断され、孤立状態になる可能性が高いので、そのような状況になったときでも生き抜くことができる教育と準備をしていく。 ・通学路や避難道の定期的な点検整備活動を協働できる体制づくりを継続して行っていく。 ・土砂災害想定避難訓練や弾道ミサイルが発射された場合の対応訓練も定期的に行っていく。							
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的にわかっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	A	◇ どの項目においても、100%の肯定率であった。見守り隊や地域の方々からの情報や助言に応じて、登下校の仕方や避難訓練の方法を変更し、知らせた結果だと言える。見通しの悪い場所や今にも崩れそうな空き家があることを忘れず、通学路の見直しや児童の通行の仕方に対する指導を継続的に行わなければならないと考えている。 ◆ 今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。 登下校指導については、児童への交通ルールやマナーに関する指導を継続して行うこととする。また、自分や他人の命を守るための知識の習得や訓練を地域と合同で実施していく必要がある。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨	50%	50%	0%	0%		
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 日々の巡視や毎月の安全点検などで、全教職員が安全確保に努めることができています。施設・設備に不備があったり修繕が必要であったりした場合には、その都度対応している。危機管理意識を常に持ち、子どもの命を守ることができる環境整備に努めている。 ◆ 引き続き、安全点検等を通じて児童の安全確保に努める。危険箇所については、管理職を通じて、教育委員会へ報告して対応する。今後も、避難所という視点と土砂災害警戒区域に囲まれているということ踏まえながら安全確保を行う必要がある。	児童アンケート⑩	82%	18%	0%	0%	0%	
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 日々の巡視や毎月の安全点検などで、全教職員が安全確保に努めることができています。施設・設備に不備があったり修繕が必要であったりした場合には、その都度対応している。危機管理意識を常に持ち、子どもの命を守ることができる環境整備に努めている。 ◆ 引き続き、安全点検等を通じて児童の安全確保に努める。危険箇所については、管理職を通じて、教育委員会へ報告して対応する。今後も、避難所という視点と土砂災害警戒区域に囲まれているということ踏まえながら安全確保を行う必要がある。	保護者アンケート⑫	67%	33%	0%	0%	0%	
七 特別支援教育の充実	⑪個別の指導計画を適宜作成・活用し、指導・支援を効果的に行う。	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解のもと個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 校内研修会では、特別支援教育校内委員会を年間4回設定し、これまでに、3回実施した。作成した個別の指導計画をもとに、学期ごとの取組や児童の様子についての情報交換をし、共通理解を図ることができた。児童の成長を感じ取りながら、児童の思いや困り感を受け止め、個に応じた対応をすることができた。 ◆ 指導の手立てが有効であったか、反省と評価・改善をし、児童に合わせた支援やよさを伸ばすことができる個別の指導計画を作成していく。学期ごとに行う特別支援教育校内委員会の中で、情報交換をし、共通理解を図りながら、適切な対応や支援をしていく。児童が困り感を軽減できるよう、個に応じた指導法の工夫や改善に努める。	教職員アンケート12-①②	36%	64%	0%	0%		
	学校運営協議会所見	・引き続き、特別支援教育における適切な教育環境の整備・確保と適切な教育を行うための財源の確保に努めてほしい。 ・道徳科の授業を参観した際、とても良い展開で進んでいて感心した。 ・児童一人ひとりを細かく見ていくれていると感じる。	学校の対応	・児童一人ひとりの特性に応じた支援をしていくことができるように、高い専門性や児童理解力を深められる研修体制を充実させていく。 ・特別支援教育校内委員会の体制や活動の充実を図る。 ・他者との関わり方やコミュニケーション能力の向上を目指し、体験活動や交流学習の場を設け、社会性や自主性といった「生きる力」を育てられるように努める。	安全点検	・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施					
	学校運営協議会所見	・引き続き、特別支援教育における適切な教育環境の整備・確保と適切な教育を行うための財源の確保に努めてほしい。 ・道徳科の授業を参観した際、とても良い展開で進んでいて感心した。 ・児童一人ひとりを細かく見ていくれていると感じる。	学校の対応	・児童一人ひとりの特性に応じた支援をしていくことができるように、高い専門性や児童理解力を深められる研修体制を充実させていく。 ・特別支援教育校内委員会の体制や活動の充実を図る。 ・他者との関わり方やコミュニケーション能力の向上を目指し、体験活動や交流学習の場を設け、社会性や自主性といった「生きる力」を育てられるように努める。							